

暦注と貞享改暦

Annotation for Calendar and Jokyo Calendar Reform

林 淳

HAYASHI Makoto

はじめに

①地方暦の暦注

②貞享二年大経師暦

③農業と醸造

④十二直

⑤二十四節気

⑥『暦林問答記』との比較

まとめ

[論文要旨]

本稿は、近世の暦に掲載されている暦注に注目して、貞享改暦以前の地方暦（大経師暦、丹生暦、伊勢暦、会津暦）の暦注を比較検討する試みである。そのうえで貞享改暦以後、暦注がどのように変化したのかを考察する。比較してわかることは、以下の三点である。第一に、貞享暦は伊勢暦を踏襲したこと。第二に、寛文一二年頃に大経師は、伊勢暦の巻頭デザインや醸造関係の暦注を模倣し、取り入れたこと。これは、暦のスタンダードが大経師暦から伊勢暦へ交代したことを意味する。第三に、会津暦と伊勢暦を比較すると、十二直の説明は共通点が多く日常生活の行為に関わる内容になった。

季節を表す暦注である二十四節気の記載の変遷を見ていくと、しだいに二十四節気の個別の名称の掲載が増えていくことがわかる。とりわけ享保一四年になると二十四節気のすべての個別の名称が記載されて、大きく表示されるようになった。

【キーワード】 暦注、貞享改暦、渋川春海、二十四節気